



が多い。途中、良いミズブキがあったので、収穫して、石橋さんのザックに入れる。

沢はいったん広くなるが、その先で再びゴルジュ状となり、15m滝が豪快に落ちている。左岸の撻道を使って下に降りる。

その後は平凡な沢となり、砂防ダムが出てきた。もう林道は近い。林道に出たところで今日の沢登りを終え、みんなの待っているテン場へ急ぐ。

(記・)

[タイム] 下降開始(9:10)→林道(11:15)

大沢右俣 1986年7月27日

L

車で大沢出合まで入り、和泉さん達と二俣まで一緒に遡行する。二俣で左俣に入る和泉パーティと別れ、右俣を遡行する。

二俣から先は水がない。砂防ダム3つを越えると、左岸のガレ場

から土石が沢に押し出してきている。その先からナメとなり、水量も出てくる。このナメは、沢の最後まで続き、傾斜がきついので、全体が滝といった感じもする。上部はナメ滝としてもきつく、ホールドをさがしながら登る。

ヤブこぎは30分。笹の密生したヤブで、苦勞して尾根上に出る。

(記・)

[タイム] 大沢出合(6:50)→二俣(7:00)→遡行終了(8:20)→尾根(8:50)

大沢左俣 1986年7月27日

L

夏合宿2日目に、私達は釜沢支流の大沢左俣に入る。釜沢にそって奥に延びている林道を、大沢右俣に入る穴戸君たちのパーティと一緒に出合まで車で入る。

